

## 米

# 出穂前後からの水管理 病害虫防除の実施・台風時の水管理の徹底も！



大津中央支所営農課  
桐原 竜治

## 水稻の水管理(出穂～収穫まで)

出穂から収穫までの水管理によって玄米の収量・外観品質に大きく影響します。特に収穫前の早期落水は、白未熟粒や胴割粒の発生につながり、品質・収量の低下をまねいてしまいます。開花期以降も間断灌水を心掛け、根(うわ根)の成長を健全に保つことが重要です。また、収穫に支障がないかぎり落水の延長を心掛けましょう。

- **出穂前後**……出穂前後は最も水を必要とする時期なので、やや深水とする。
- **開花期以降**……間断灌水で土壤に酸素を供給し、根の機能を保つ。
- **成熟期以降**……早期落水は玄米の品質低下をまねくので、収穫に支障がないかぎり落水を延長する。

注)台風や吹き下ろしの風(フェーン現象)が強い時は倒伏防止のため深水とする。  
また、稲が消耗し水を大量に必要とするため、一時深水を保ち、その後は間断灌水とする。

## 病害虫防除

### トビイロウンカ(秋ウンカ)の発生に注意！

本年は7月2日に合志市に設置してある予察灯においてトビイロウンカの初飛来が確認され、7月4日にはまとまった飛来が確認されています。この先、気温が高く推移することが予想されトビイロウンカの増殖サイクルが早まる恐れがありますので注意が必要です。



トビイロウンカ(秋ウンカ)の被害の様子

トビイロウンカは、水面近くの株に生息するため確認が難しく、その増殖率から収穫前に大発生し、坪枯れを引き起こしてしまうことがあります。防除適期を見逃さず、株元まで薬剤が届くように、しっかりと防除しましょう。

### いもち病の発生に注意！

いもち病の発生は気象によるところが大きく、夏期の低温、多雨、日照不足などが原因になります。この他にも窒素過多の圃場で発生しやすい傾向にあります。穂いもちが発病すると手遅れになる場合が多く、大幅な減収となります。予防的に防除することが大切です。

◆本田での防除について、使用薬剤・使用方法・散布の仕方・防除適期など、ご不明な点がございましたら中央支所の指導員にお尋ねください。

## 台風時の水管理 次のことに気をつけましょう。

- ①事前対策として強風による水分ストレス等を避けるため、やや深めに湛水する。
- ②事後対策として冠水した本田は極力排水に努め、水の入れ替えを行う。
- ③強風後のイネは水分の吸収が盛んになるのでやや深水とし徐々に浅くし、回復を待つ通常の水管理にもどす。

⑧ 田んぼの見回りは、台風などで危険な状態が予想される場合は絶対に行わないでください。雨や風がおさまってから、十分に気を付けて行いましょう。